



## 変革期の校長に大切にしていきたいこと

昨年は、6月に「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトとした、第4期教育振興基本計画が策定され、5年間の国の教育施策全体の方向性が明らかになりました。

また、12月には、中央教育審議会の義務教育の在り方ワーキンググループの中間まとめが示され、これからの義務教育に関する基本的な考え方や、オンラインを活用した学び、自立した学習者の育成などについて整理されました。

さらに、GIGAスクール構想では、端末更新に必要な国家予算が概ね確保される見通しであり、セカンドステージに向けた取組も進められています。

このほか、令和6年度は、次期学習指導要領の改訂にかかわり、文部科学大臣から中央教育審議会に諮問がなされる予定であり、新たな時代の学校教育の青写真が明らかになるようとしています。

こうした流れを踏まえると、今後数年間の学校は、これまで以上に変化が求められる「変革期」の中にあり、既存の取組を見直すほか、新たな教育活動を展開するなど、様々な取組が推進されることとなります。

今後の所長室通信では、こうした変革期を迎える校長の皆様が、「新たな取組」や「大きな変化を伴う取組」を進める際に、特に大切にしていきたい次の4点について、私が行政経験等の中で教示いただいた知見などを基に述べてまいります。

- ① 先進事例の「背景」を見抜くこと
- ② 自身の「思考特徴」を自覚して判断すること
- ③ 自身が「腹落ちしたビジョン」を魅力的に伝えること
- ④ スピードに配慮した「経過目標」を設定すること